

福岡女学院短大 嶋田 英男

1. 家政学が科学として成立するためには、客観性が保障されなければならない。そのためには、価値判断との関係が明確にされなければならない。これに関しては、学説史的には、二つの問題が解決されなければならない。

第一は、いわゆる没価値性の問題であり、第二は、家政学における意思決定論の問題である。前者については今年の総会で報告したので、今回は後者について報告する。

2. 文献的資料により、学説史的に究明する。

3. 日本の家政学には、理論的認識と実践的評価との混同が多過ぎる。その点で没価値性論に学ぶ点が多い。

しかし、家政学は、純理論的側面のみでなく、政策的・技術的側面をも対象とする。ここに、価値選択あるいは意思決定の問題がある。ここでは、形而上学的、哲学的、倫理的な規範的価値や究極的目標というものは、科学の世界から一応、別にしなければならないであろう。

家政学における価値は、事実や存在から導かれた、存在論的、客観的なものでなければならない。それは、科学の諸条件に適合するものでなければならないし、その点では、近代論理学や経営学に学ぶものが多い。これは、理論と実践との統一として、また、価値の客観的選択の問題として論証される。